

指導者用デジタル教科書(教材)を活用した公民授業 —さまざまな「リンク」で広がる授業実践例—

沖縄県立球陽中学校 山里賢吾

1 はじめに

「いかにリアリティあふれる教材を探し出し、授業で生徒に提供できるか」——われわれ社会科教師の永遠のテーマです。近年、授業の風景は従来の黒板とノート中心のアナログ授業から、デジタル教科書の登場によって大きく変容しました。従来の授業も温かみがあって良いのですが、授業中の思考力と情報の共有がより求められてきた昨今、デジタル教科書の活用は必要不可欠なものとなりました。

平成29年告示の新しい学習指導要領において公民的分野の目標(2)では、社会的事象の意味や意義、特色や関連性を多面的・多角的に考察し、課題を公正に思考・判断し、説明や議論する力の育成、(3)では課題解決能力と公民的資質の育成が謳われています。

現代はさまざまな媒体がもたらす豊富な情報にあふれ、見方次第で多様なとらえ方がされ、ややもすれば分析が曲解されてしまう状況も多々発生しています。これからの情報社会の荒波を生きていく生徒には、正しいデータ分析や判断力の更なる育成が求められます。本稿では、データ分析や判断力育成に関して、『帝国書院指導者用デジタル教科書 社会科 中学生の公民』(以下、デジタル公民教科書)を活用した授業のヒントを提案させていただきます。

2 授業展開例

題材「地方財政の現状と課題」
『社会科 中学生の公民』p.92～93

上記単元の全体像を見てみると、p.92～93の1行目までの本文では、地方財政の基本的な知識が押さえられ、p.93の2行目以降では、地方財

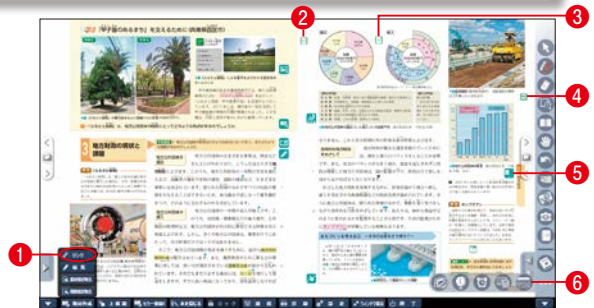


図1 指導者用デジタル教科書(教材) p.92～93
「地方財政の現状と課題」

政の課題が明確に述べられています。本文の流れから、単元内の諸資料を関連づけ、解説を行い、生徒の思考を促し、身近な地域が抱える問題と「リンク」させる授業が一般的でしょう。本授業では、さまざまな媒体を通じた資料をデジタル公民教科書にリンクさせ、生徒の思考を広げることを目的とします。Wordなどでつくった資料や、写真・動画、PDFのほか、ウェブ、使用している指導者用デジタル教科書(教材)内のページなど多様な種類の資料とリンクさせる機能があり、ウィンドウ下部の教材作成タブ(図1①)よりリンクを張ることができます(2～④の緑色のリンクボタン)。これをマスターすると、教材提示のバリエーションが広がります！

(1) 導入

まず、授業スライド3/9で本時の学習課題を提示しますが、身近な地域と関連づけさせるため、黒板等にサブ課題「県内市町村の財政の現

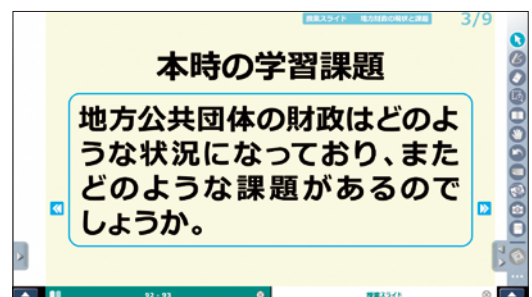


図2 授業スライド3/9「本時の学習課題」

状を理解し、課題を探ろう」を提示します。最初は、地域のニュースや現在抱えている問題などを自由に発言させてもよいでしょう。「どのような課題があるのか」生徒が一通り意見を出し終えたら、本格的な学習に入っていきます。

前時に出した「宿題」を確認します（家庭での課題に予習プリントを配付しており、ここではデジタル公民教科書収録の学習プリント前半・図3を宿題とします）。これを授業前に提出させ、内容チェック後に確認の押印を行い、スキャナでPDFデータにします。「PDFリンク」ボタン（図1②）で同期させ、解答はどのような記述か、注目すべき記述についてはクラスで確認し、記述内容に関して全員で意見交換を行います。こうすることで課題毎に学級内での記述傾向をつかみ、カテゴリー分け等も可能です。

学習プリント
公民「地方財政の現状と課題」

名前 _____ 年 _____ 組 _____ 番 _____

1 地方公共団体の歳出
① 地方公共団体の歳出のうち、①にあてはまる項目を記入し、そのおもな使いみちを調べてみよう。
① _____
使いみち：

2 地方公共団体の歳入
① 地方公共団体の歳入のうち、①地方交付税交付金、②国庫支出金、③地方債とはそれぞれどんな内容のものですか。
① _____
② _____
③ _____
② 資料Ⅱからいえる、地方公共団体の歳入の課題をあげてみよう。

図3 デジタル公民教科書収録の学習プリント(前半,宿題部分)
実際に『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）本文と並行しながらプリントの確認を行います。「1 地方公共団体の歳出」については基本的に知識で解答させ、しっかりと定着させることが求められます。「2 地方公共団体の歳入」(2)の問題ですが、教師が何も指示せず、ただプリントを配付するだけでは、多くの生徒が教科書本文から「地方債」に関する記述を抜き出して解答するだけの状況になるでしょう。あえて指示せず、授業でデータのみを示して思考を促す手法もありますが、プリントを配付する際に、データの変化に気づかせる教師のアプローチが重要です。単年度データのみではなく、数

か年毎のデータを調べ、その内容の推移からさまざまな状況を指摘する生徒や、1の(2)の「公債費」に関連づけて解答する生徒が現れてほしいものです。

(2) 展開

課題1 「全国平均でみた地方財政と、とある県内市町村の財政を比較してみよう」

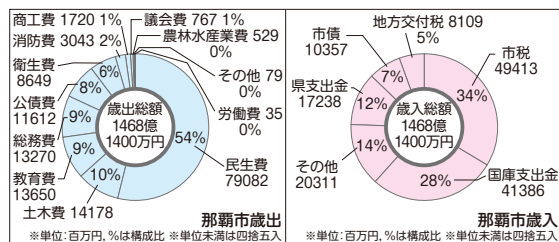


図4 平成31年度 那覇市一般会計予算の歳出と歳入
〔「なは市民の友」(令和元年5月号)より筆者作成〕

ここでは、教科書p.93「④地方公共団体の歳出(左)と歳入(右)の全国平均」と沖縄県内の市町村の財政状況を比較します。本授業では沖縄県の県庁所在地である那覇市の財政データを検証例として提示（図1③、図4）、比較すると、以下の差異を読み取ることができます。

歳出：那覇市は民生費のしめる割合が高い。
公債費のしめる割合が低い。
歳入：自主財源は全国並みである。
国庫支出金の割合が高い。

視点 「全国平均と比較したとき、那覇市の財政は良い状況か、悪い状況か」

この視点を生徒に投げかけると、大きく3つのグループに分かれます。

- ①公債費の割合が少ないので「良い状況」である。
- ②民生費のしめる割合が高いということは、福祉に手厚いという面も考えられるが、生活に困っている人も多いのではないかと。教育費も割合が低いので「悪い状況」かもしれない。
- ③判断に迷っている。

ここでわれわれ教師はどのような助言を送れば良いでしょうか。①②に関しては、1つのデータにばかり注目して判断を下していないかを生徒に留意させます。①②の意見をもつ生徒にその根拠を、③の生徒に対しては判断しかねる理由を挙げさせて、それぞれの発言を板書等にメモ書きしてみるのも良いでしょう。ここで単年

度のデータだけでなく過去の複数年データを提示すると、生徒の意見が大きく揺さぶられます。

データは教師が用意しても、広報紙等のデータに頼っても良いでしょう。ほとんどの市町村が前年度と比較した分析も掲載しています。筆者は、あらかじめ作成した外部ウェブサイトへのリンクボタン(図1④)から「なは市民の友」(令和元年5月号)を画面上に提示し、那覇市の財政状況を分析した文章を生徒に確認させます(以下に、その要点を記します)。

一般会計予算は

- ・前年度比7億5700万円(0.5%)減
- 歳入については
- ・地方交付税は、約2億円(3.0%)減
 - ・国庫支出金は、約3億円(0.7%)減
 - ・県支出金は、約24億円(12.3%)減
- 歳入の自主財源である市税は
- ・法人市民税が約7億円(14.9%)増
 - ・固定資産税が約8億円(4.0%)増と堅調に拡大
- 市税全体としては、約18億円(3.9%)増加の、過去最大となる約494億円を見込んでいる(那覇市の予測)

分析を読み、揺さぶられた生徒からは、「歳出の公費費は全国平均の約3分の2だが、歳入の県支出金の割合が引き続き高い」「県支出金って何？」など、多面的・多角的にとらえた意見や疑問が出てきます。予算項目の増減についてさまざまな視点で考察させ、次の課題2へと繋がります。

課題2 「公債金が増えると今後どのような問題が発生するのか」

教科書p.93「効率的な地方財政をめざして」では、地方財政の厳しい現状が指摘されています。デジタル公民教科書内の図「⑥地方公共団体の借金」(図1⑤)は、スライドを用いて、年度毎の変化を生徒に予想させたり、GDPと地方債現在高との相関に注目させたり、対話的なやりとりを行うことができます。

地方債がバブル経済崩壊後に急激に増加した背景として所得税・法人税の減少を説明し、地方債のGDPに占める割合が高まっていることを読み取らせます。その際、デジタル公民教科書画面下にある「経済年表」のタブ(図1⑥)をクリックし、GDP項目を表示させ(図5⑦)、経済的な事柄から読み取らせても良いでしょう。

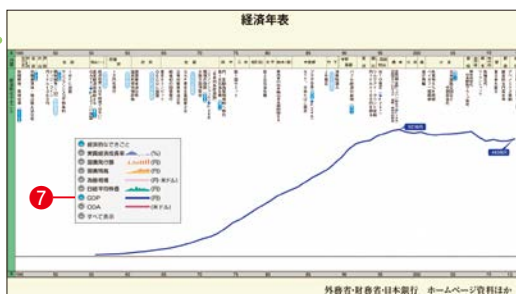


図5 経済年表(GDPの推移を表示)

図6 デジタル公民教科書収録の学習プリント(後半)

そして、債務超過になると地方公共団体はどうなるのか、財政の改善策にはどのようなものがあるのか、学習プリントの3(2)(3)をまとめます(図6)。

(3) まとめ

最後に学習プリントの「本時のまとめ」を記述します。記述前に教科書p.92「クローズアップ」で紹介されている西宮市のウェブサイトを生徒に提示します。リンクボタンを事前に用意し、任意の市町村のウェブサイトからふるさと納税について閲覧させても良いでしょう。閲覧後にまとめを記述させ、学習課題「地方公共団体の財政状況と課題」と、サブ課題「県内市町村の財政の現状理解と課題」に関連した記述が成されれば、本授業の目的は達成されます。また、本時の宿題として、生徒自身が住む市町村の財政状況を調べさせる教師自作のプリントを配付します。

3 おわりに

本稿は、①:指導者用デジタル教科書(教材)をさまざまな媒体や資料と「リンク」させ、「メディアステーション化」させること、②:①によって生徒のデータ分析能力を高め、思考を広げて根拠をもって自らの意見とすることの2点に特化した授業実践例です。拙稿ではありませんでしたが、読者のみなさまのちょっとしたヒントになれば幸いです。

帝国書院の指導者専用サイトに本授業実践例のプリントを掲載する予定です。▶<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>